

経営比較分析表（令和4年度決算）

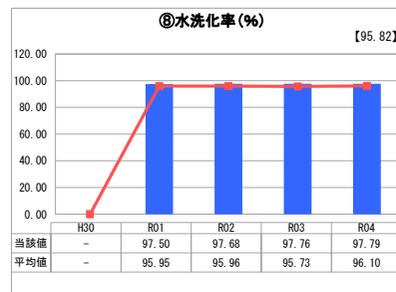
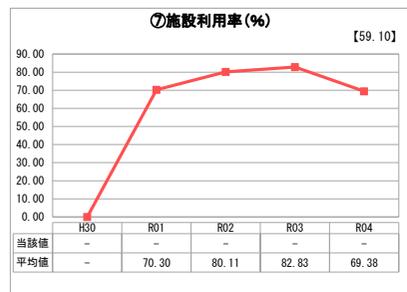
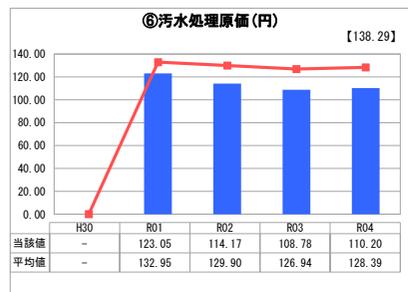
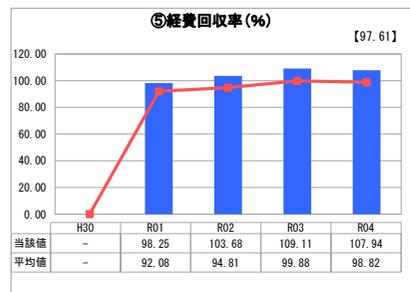
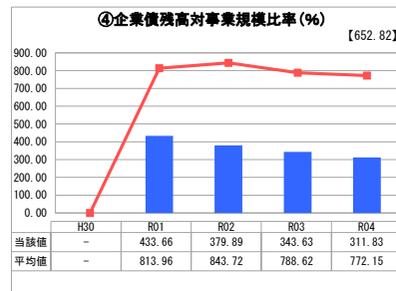
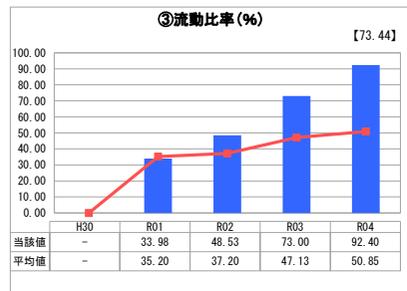
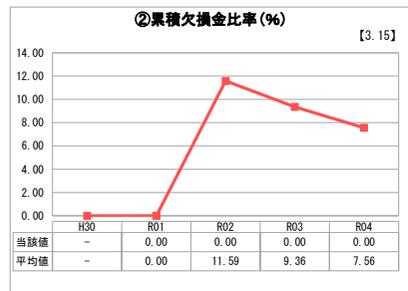
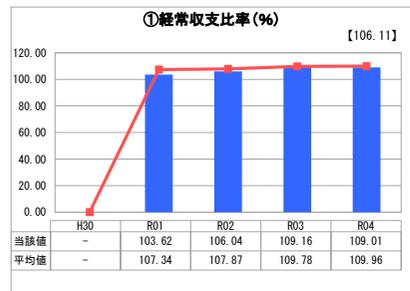
東京都 稲城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	85.03	99.29	95.03	2,068

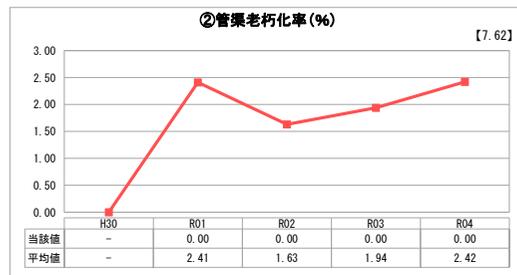
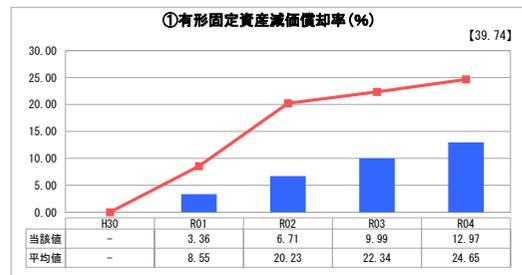
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
93,421	17.97	5,198.72
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
92,822	11.28	8,228.90

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

稲城市では、現在も土地区画整理事業等により、人口増が継続しています。これに伴い有収水量・使用料収入も増え続けています。

一方、元利償還が進んでいることから、④企業債残高対事業規模比率も減少しており、類似団体平均値を大きく下回っている他、有収水量の増加に伴い⑥汚水処理原価も減少しています。

使用料収入が増加し、起債の償還が進み支払利息が減っていることから、①経常収支比率や⑤経費回収率は100%を超え、黒字収支となっており、安定した経営状況となっています。

③流動比率は100%を下回っていますが、これも起債償還のピークを超えたことから改善傾向となっています。

以上のことから安定した経営状況ではありますが、今後も接続促進等を行い、⑧水洗化率の向上に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

稲城市の公共下水道事業は昭和56年度から開始しているため、法定耐用年数を超える資産がまだありません。

よって、資産の老朽化割合を示す①有形固定資産減価償却率は平均を大きく下回っており、②管渠老朽化率や③管渠改善率は0%となっています。

今後、資産の法定耐用年数が到来し、修繕・更新事業が課題となってくることから、令和2年度に策定したストックマネジメント計画実施方針に基づき、計画的に調査・点検、修繕・更新を行っていきます。

全体総括

稲城市では、土地区画整理事業等で人口の増加が続いており、第五次稲城市長期総合計画では、計画期間である令和12年度まで微増ではありますが、人口の増加が見込まれています。

人口増に伴う有収水量の増加に加え、起債の償還に伴い、汚水処理費が減少することから、経費回収率をはじめとする各指標は向上し続けると予想しています。

しかしながら、今後、大量の施設の老朽化が見込まれ、多大な維持管理費用や更新費用が必要となることを見込まれることから、下水道事業経営戦略、ストックマネジメント計画実施方針を基に、持続可能で安定した経営基盤の構築を行っていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。